

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	芦屋市立すすく学級			
○保護者評価実施期間	R7年12月8日 ～ R7年12月19日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	R7年11月12日 ～ R7年12月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R7年12月24日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・施設的环境、体制整備が整っている。	・利用定員に対して十分な広さを確保しているが、天候や気温により、活動内容が制限されることがないように、2階の保育室や訓練室を活用して体を十分に動かすことができる時間を確保している。	・近隣にある複数の公園の利用を、積極的に取り入れていく。
2	・すすく学級での活動プログラムが固定化されないように工夫している。	・週ごとに活動内容を職員全員で確認し、前週の保育との繋がりや季節に応じた保育内容を意識してプログラムを作成している。 ・こどもの興味や課題に応じた、新しい体操や運動遊び、制作活動等を積極的に取り入れている。	・研修等に積極的に参加し、受講したことを保育に取り入れたり、訓練士に指導を受けたりしながら、多職種の視点で色々な活動を提供できるようにする。
3	・こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されている。	・保護者からのニーズを丁寧に確認したうえで、すすく学級としてこどもに必要なと思われる支援等について、保護者等と相談を行い、計画を立てている。	・本人支援だけでなく、家族支援、移行支援、地域支援等の項目についても、説明時により具体的に分かりやすく伝えるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	・今年は、市立緑保育所の木育キャラバンに参加したり、すすく学級でのクリスマス音楽会に市立岩園保育所の5歳児を招待したりする機会はあったが、場所の提供はあっても交流までには至らなかった。 ・夏の期間の交流は、猛暑の影響もあり、時期的に適していない。	・今後も交流に向けて保育所やこども園、幼稚園と積極的にコンタクトをとり、実現に向けた打ち合わせや計画を立てる必要がある。
2	・家族支援プログラム（ペアレントトレーニング）の趣旨が保護者にとって分かりにくい。	・すすく学級として、現在ペアレントトレーニングのプログラムは行っていない。 ・親教室や個別相談、発達相談、こころの相談等で家族に対して関わりを学んだり相談したりする機会はあるが、ペアレントトレーニングの内容とは異なっており、保護者にとって違いや趣旨が分かりにくいものになっている。	・家族支援プログラムについては、発達相談員とも連携して、保護者に分かりやすい説明を行うようにする。
3	・ソーシャルメディアを活用した連絡の発信がほとんど行われていない。	・活動概要や行事予定、連絡事項等は、掲示したり、直接口頭で伝えたりすることで周知徹底されているため、ソーシャルメディアを活用するニーズがほとんどなく、保護者からの要望もあがっていない。	・連絡事項は従来通りの伝達方法で、丁寧な対応を心がけるとともに、すすく学級のHPの更新を行っていることや、自己評価の結果についても掲載されることなどを周知していく。